

インターバンクの声（2017年1月20日）

トランプ次期大統領が米メディアとのインタビューでドル高を懸念する発言をしていたことが伝わったのが火曜日。ドルが全面安となり、ドル円も112円台までドル売りが進んだが、米長期金利の低下も止まり、18日の講演でイエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長が追加利上げに前向きな発言をしたこともあって、昨日からは緩やかながらドル円も反発し始めた。

このまま次期大統領就任式を待つ展開とも思われたが、昨夜は欧州中央銀行（ECB）理事会後にドラギ総裁が緩和姿勢を続けると発言したことや、次期米財務長官に指名されたムニューチン氏が指名承認公聴会の質疑応答で長期的なドルの強さに言及したこともあってドルの上昇が続いた。

12月の米住宅着工件数が堅調だったことで既に市場がドル買いに傾いていたこともあって、ムニューチン氏がトランプ次期大統領のドルが強すぎるとの発言は長期的な為替政策に基づく見解ではないとしたことから当初ドルは素直に買われた。

しかし、その後ムニューチン氏がドルについて「非常に、非常に強い」との発言を加え、この発言こそが彼の本音と感じた市場はドル売り調整に転じた。次期大統領だけでなく、次期財務長官も曲者のようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。